

○按ズルニ、徳川幕府ノ時、工人ニ天下一ノ文字ヲ用キルヲ禁ゼシ事アリ、産業部工業總載篇ニ在リ、

〔松屋叢話〕平務廉は號を竹庵といふ、村田春海の門人にして、めでたき歌人なりけり、手かくわさもこよなうすぐれてぞありける、その家に新の王莽が鏡をもたりけるは、いとめづらかなる物なりや、その記にいへらく、徑五寸五分、重百二十五錢、背作八乳、銘四字、曰長宜子孫、外輪作八乳、間列鳥獸形、流雲邊、素鼻、銘二十八字、其五不可識、按博古圖載漢清明鑑、銘云、漢有善銅出丹陽、和以銀錫、清且明、左龍右虎、尙三光、朱爵玄武、順陰陽、文略同、而此云、新有善同出丹羊、則爲新莽之鑄也、明矣、莽之貨泉、儘有銅器、難得、隸續獨載新莽候鈺、今此鑑之存于我、亦可珍也、善同即善銅、周禮典銅作典同、丹羊即丹陽、漢綏民校尉熊君碑文、歐陽作歐羊、古字假用、並可證也、と有にて知るべし、○下略

〔槐記〕享保十一年六月廿四日、參候、千金方ノ客忤門ニ、銅鏡鼻ト云モノアリ、何物タルヲ知ラズ、本草類ヲ考ヘテモ、不分明、モシ鏡ノ柄ナドノコトニヤト窺フ、○中略翌日則右ノ出處ノコラズ、御考ノ趣ヲ御見セナサル、

一鏡如鐘樣、鼻上有大環、瑯琊代辭卷廿三鏡臺即所以架鏡者、帶穿鼻以拱持、挈併及之、合璧事類卷五十三鏡部右之趣ナレバ、究メテ柄ナキ、唐ノ鏡ナド云、丸鏡ノ裏ニアルツマミノコト也、コレ見ヨトテ、御家ニアル唐ノ鏡ヲ御見セナサル、類モナキ、古鏡ノ最見事ナルモノニテ、裏ニツマミナドアリ、帶ヲ穿テコレアリ、四方ニ富貴當寂ノ四字アリ、

〔肥前風土記〕小城郡鏡渡在郡北昔者檜隈廬入野宮御宇、武少廣國押楯天皇宣化之世、遣大伴狹手彥連、鎮任那之國、兼救百濟之國、奉命到來、至於此村、即嫂篠原村篠原村弟日姬子成婚、日下部君容貌美麗、特絕人間、分別之日、取鏡與

緒 帶